

日本を守ろうとした米・日本特別大使 ウィリアム・キャッスル

令和5年 **10月11日** (水)
18:00 - 20:00 (開場 17:40)

講師 **田中 秀雄**
(近現代史研究家)

参加費 1,000円

会場 **文京区民センター**
2階 A会議室
東京都文京区本郷4-15-14

【講演要旨】

- ①ハワイとアメリカ、ハワイと日本
- ②現実主義外交官として腕を磨く
- ③日本特別大使としての体験
- ④外交評論家の時代
- ⑤支那事変以降の苦闘の時代



日米関係が最も危うくなった昭和15年、あの『暗黒大陸中国の真実』の著者であるラルフ・タウンゼントは、ウィリアム・キャッスルの言論を支持して欲しいと、そのパンフレットで叫んでいた。この年に結成された「アメリカ第一委員会」は、アメリカの第二次大戦参戦を阻止しようとする団体だったが、キャッスルはその重要な構成員だった。経歴的にも駐日大使、国務次官（フーバー政権）という輝かしい経歴から、ルーズベルト政権を批判する言論家として、その中心にいた人物である。ハーバート・フーバー大統領の側近中の側近であり、駐日大使任命も、フーバーが依頼したものだった。駐日大使としては、戦争まで十年間勤めたグルーが有名だが、そのグルーに大使として赴任して欲しいと手紙で依頼したのは、国務次官のキャッスルである。ジュネーブで、松岡全権が国際聯盟脱退を演説していた頃、グルーは、日本が共産主義の防波堤を満洲に作り、そこをかつてない繁栄に導くだろうと日記に書いている。キャッスルはそのような人物こそが駐日大使にふさわしいと考えていた。グルーの研究は多くあるが、なぜかキャッスルは論じられない。私は渾身の力を込めて彼の評伝を書いたのである。

田中 秀雄（たなか・ひでお）先生

昭和27年生まれ。福岡県出身。慶應大学文学部卒。在学中から日本近代史研究を続ける。著書『石原莞爾と小澤開作』、『朝鮮で聖者と呼ばれた日本人』、『日本はいかにして中国との戦争に引きずり込まれたか』、『中国共産党の罠』、『優しい日本人、哀れな韓国人』、訳書『満洲国建国の正当性を弁護する』『日米戦争の起点を作った外交官』、共訳書『暗黒大陸中国の真実』その他。

講演会への事前のお申し込みは不要です。お問い合わせはお電話、ファックスまたはメールにて下記まで

新しい歴史教科書をつくる会／同東京支部（共催）

〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3-203

TEL: 03-6912-0047 FAX: 03-6912-0048 MAIL: konshin@tsukurukai.com